



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/09/13

## 携拳深掘りシリーズ#2

### 人類史上 2 番目に携拳された人 - 預言者エリヤ

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*^o.\*

お元気ですか。高原剛一郎です。ここでは携拳について考えるシリーズをお届けしています。ある時、クリスチャンたち全員が一人残らず、忽然と姿を消す時がやって来ます。天に挙げられ、地上には本当に救われているクリスチャンたちが一人もいない、という時代がやって来るんですね。

クリスチャンたち/教会が天に挙げられることを**携拳**と言います。

携拳はプロテスタントの人たちだけが信じている独自の風変わりな考えではなく、旧約聖書の中に既に2度前例があるというお話をしています。

携拳された一人目はエノクでしたね。前回の動画で紹介したとおりです。

今日は二人目をご紹介します。大預言者エリヤです。

エリヤには後継者がいました。エリシャです。エリシャの記事の中に、どうにもこうにも理解不能というか、解釈が難しい箇所があるので、今日はそこを一緒に見て行きましょう。

#### 列王記第二 2 章

**23 エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたちが出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、**

**24 彼は向き直って彼らをにらみつけ、主の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をかき裂いた。**

はあ？みたいな箇所ですよ。子供たちがエリシャを嘲った・からかったので、エリシャが主の名によって呪い、熊に襲われて42人の幼い子供たちが殺されたって。はげ頭って子供にからかわれたくらいで死に至らしめるってね、大人気なさすぎるじゃない。何なんだ、これは！

ここは、よくつまづくところなんですよ。どういうことなの?! という。

これには翻訳上の問題があるんです。

ベテルはバアルの偶像神殿があった所です。

小さい子どもたちと翻訳されている言葉は単数形でナル、複数形はネアリーム。

これは子供から成年男子までの、広い年齢層の男性のことなんです。

小さい子どもたちは誤訳ですね。そうではなくて“若者たち”。

なぜそう言えるのか。ネアリームが他のところで“若者”と訳されているんです。

それはアブラハムがいた時代、今から4000年も昔のことです。

ソドムという非常に乱れた、汚（けが）れた、不道德な町がありました。そこにロトという人がいて、ある時、御使いたちが彼の家を訪問し、泊まるんです。御使いたちは若い男性の姿をしていました。彼らを性的に襲いたい、男性を強姦したいと願う男どもがロトの家を襲撃する場面です。

## 創世記 19 章

**4 彼ら（若い男性の姿をした二人の御使い）が床につかないうちに、その町（ソドム）の男たちが若い者（ネアリーム）から年寄りまで、その家を取り囲んだ。すべての人が町の隅々からやって来た。**

ここでは子供たちと訳していませんね。それは合理性がないからです。幼い子供たちが男性を強姦することはあり得ない。

**5 そして、ロトに向かって叫んだ。「今夜おまえのところにやって来た、あの男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいのだ。」**

知りたいというのは知的に知りたいのではなく、性の体験をしたいという意味です。もう腐れ切っている。汚（けが）れ切っている。そういうことをいけしゃあしゃあと申し出ている若い者が、先ほどの個所ではなんと、小さい子どもたちと訳されている。小さい子どもたちじゃないんです。

ベテルにあったバアル神殿、金の子牛が安置されていたバアル神殿に仕えている若い男たちのことです。彼らはバアルの預言者の卵なんですね。それが 42 人以上もやって来たということは、組織的だということです。

そうして、彼をからかって 2 つのことを言いましたね。「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」。

### 1) はげ頭

これを見て、「エリシャは禿げ頭だったんだ」と早合点するのはチト待った！当時の預言者たちは布で頭を覆っていたので、彼が本当に禿げていたかは見ただけでは分からないんです。では、なぜはげ頭と言っているのか。

聖書に はげ頭という言葉が最初に出て来るのは **レビ記 13 章** です。

ここに 4 節にわたって、禿げ頭について細かい指示が書いてあるんです。

禿げ頭には 2 種類ある。

①単純な脱毛による禿げ頭。これは全然問題ない。

②ツアラートの症状としての禿げ頭。ツアラートは伝染病です。

### レビ記 13 章

**42 もしその頭のはげか額のはげに、赤みがかった白い部分があるなら、それは頭のはげに、あるいは額のはげに生じたツアラートである。**

この場合、その人は汚（けが）れている。儀式的に汚（けが）れた人。不適格者。

それで、様々な儀式から遠ざけられたんです。

つまり、はげ頭というのは、おそらくツアラートに冒された人・汚れた人という侮蔑的な意味が込められていたと想像されます。単に容姿を言ったんじゃない。

「おまえは預言者を名乗っているが、預言者でも何でもない。汚れ果てた男だ。なにが預言者だ！」と嘲っているんですね。

## 2) 上って来い

新共同訳聖書の訳は“上って来い”ではなく“上って行け”。

私は“上って行け”と訳すほうが良いと思います。

実はこのエリシャからかい事件の直前、彼の人生に大衝撃を与えた大事件があったんです。それは、預言者エリヤが携拳された事件。

## 列王記第二 2 章

**11 こうして、彼ら（エリヤとエリシャ。師匠と弟子。エリシャはエリヤの後継者）がなお進みながら話していると、なんと、火の戦車と火の馬が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。**

**12 エリシャはこれを見て、「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。**

大預言者エリヤが携拳された記事です。携拳の瞬間をエリシャは目撃したんですね。わが父、わが父。エリシャにとってエリヤは父のような存在でした。今まではこの父の庇護の下で様々な訓練を受けて来たけど、尊敬し頼りになる父親のような存在のエリヤが天に引き上げられてしまった。

イスラエルの戦車と騎兵たち。当時最強の武器は戦車と馬でした。

騎兵は馬にまたがっている兵士です。最も強力な姿をしたものたちがエリヤを取り巻き、天にエスコートして行った。すなわち、エリヤは寿命でこと切れて魂だけが天に行ったのではなく、死ぬことなく肉体を持ったままで天へ上って行った。

そして、エリヤはもう見えなかった。これはエリシャが目撃したことです。

エリヤの携拳を見た人は、エリシャ以外にだれもいないんですね。

エリヤはイスラエルの超有名人でした。エリヤが預言したとおりに干ばつが来たり、様々な奇跡があったりで、イスラエルでエリヤを知らない人はいない。そのエリヤが忽然と姿を消した。天へ上って行った。

この噂は全部、イスラエル全土に広まりました。しかし、エリヤの携拳を見たのはエリシャだけなので、いなくなったと聞いた時、天に挙げられたと信じる人もいたでしょうが、「ナニ言ってた。どっかで野垂れ死んでるんじゃないの」みたいに侮っている人たちもいたんですね。

先ほどの、ベテルの偶像礼拝の宮で仕えているバアルの預言者の卵たちは、携拳を信じていませんでした。

「上って来い（上って行け）、はげ頭」は、携拳という神のメッセージに対する侮蔑なんです。「師匠が天に挙げられた？はあ？そんなこと起こり得るはずがない。もしおまえが言っていることが本当なら、おまえも師匠の後にくっついて行って、天に上げられたらどうなんだ！上がって行ってみろや！」

信仰者が忽然と姿を消した時、「本当に神がそのようにされたんだ」と恐れる人と、「そんなこと、あるワケないっしょ！」と侮りの気持ちをますます大きくしていく人たちに分かれていた。なので、神からの警告をあくまで笑い続ける人たちに向かって、主の御名によって呪って裁きが下ったんですね。

さて、携拳が起こった時、ある人たちは「クリスチャンたちが語っていた携拳の約束は本当だったんだ。新約聖書で何度も繰り返し約束されていた携拳は本当だったんだ」と思うでしょう。しかし、ある人たちは「集団失踪、集団自殺でもしたんじゃないの」ということで、受け止めないかもしれません。

皆さんはどうですか。聖書は真実です。神は約束したことを必ず果たされます。キリストは必ず携拳してくださる方です。あなたはその準備が来ていますか。ぜひイエス・キリストを信じてください。そして、あなたも携拳していただくために必要な準備をしてくださいますように心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

\*\*\*\*\*  
引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017